

経尿道的膀胱腫瘍切除 (TUR-BT)を受けられる患者様へ

秋田大学医学部 泌尿器科教室

手術と術後経過

- 全身麻酔もしくは背中からの下半身麻酔(脊椎麻酔または硬膜外麻酔)で手術を行います。
- 腫瘍の部位により、足の付け根より麻酔をかけることがあります。これは、閉鎖神経ブロックと呼ばれます。
- 尿道から専用内視鏡をいれて膀胱腫瘍を切除します。
- 手術時間は30～120分程度です。(腫瘍の大きさによって異なります)
- 手術当日から点滴を開始します。飲水と食事が十分にできると主治医が判断できた時点で終了となります。たいていの場合、手術当日から翌日に点滴は終了します。
- 術後感染予防のため、手術当日に抗生剤の点滴を行います。発熱があったり、尿路感染症が疑われる場合には、引き続いて抗生剤の点滴や内服をしていただく場合があります。
- 手術翌日より食事・歩行が可能です。
- 尿道のカテーテルは、血尿の程度をみて術後2日以降に抜去します。
- 術後3日目以降に退院可能となります。詳しい病理検査の説明は通常は退院後外来で行います。

手術の合併症

- 1) 膀胱壁の穿孔:手術中に膀胱の壁に穴があいてしまうことがあります。穴の開いた部位によっては、灌流液が腹腔にもれてしまい腹膜炎をきたす危険があります。このような場合には、開腹手術で膀胱壁を修復したり、排液のためのチューブを挿入して行くことがあります。入院期間も延長します。
- 2) 尿道の違和感:尿道にカテーテルが入っているため、多くの方は違和感、不快感がみられます。
- 3) 頭痛、下肢の違和感:麻酔の影響です。多くの場合自然に軽快します。
- 4) 出血:血尿はほぼすべての方にみられますが、程度が強い場合は輸血や再手術が必要になることがあります。退院後1ヶ月くらい再出血の可能性があります。その際には再入院が必要な場合があります。
- 5) 感染症:尿路感染症、精路感染症などにより、術後、発熱、排尿痛、陰嚢内容の疼痛などが生じることがあります。
- 6) 排尿困難、排尿痛、尿失禁:カテーテルを抜去してから、数日から数週間持続することがあります。ほとんどの場合、術後1週間程度でよくなります。
- 7) その他:手術時、術後に予期せぬ合併症(肺梗塞、心筋梗塞、脳梗塞、脳出血など)が生じる可能性があります(このような合併症は極めてまれですが生命に関わる場合があります)。

年 月 日

上記について説明を行いました。

氏名

上記について説明を受けました。

氏名